

被災直後の門脇小学校



宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

ひらかわ あらた
平川 新

未来への航路

早かった委員会の設置

前回、2013年12月18日に宮城県が震災遺構有識者会議を立ち上げたことを紹介しました。じつは、これより早い同年11月27日、石巻市は「石巻市震災伝承検討委員会」を設置しています。復興庁が同月15日に震災遺構保存への支援方針を発表してから、わずか12日後のことでした。

津波被害のもっとも大きかった自治体として、復興に注力しつつも、災害の教訓をどう次世代に伝えていくかを早くから考えていたからその動きでした。その証拠に、市の復興政策課から私に委員就任の依頼があったのは、同年9月30日のことです。

委員会は、石巻市民4人のほか、地元マスコミ、復興庁、宮城県大学関係者など9人で構成され、委員長は私、副委員長は谷川正明さん(市文化財保護委員会議長)が務めました。委員会では、震災の傷跡や悲しみの記憶、震災を通じて得られた教訓を後世に伝えるための施策を検討しました。

市民アンケートでは、震災遺構候補として約6割が門脇小学校をあげていました。次に旧石巻ハリストス正教会、観慶丸商店

⑦石巻の震災遺構

中瀬北地区の順です。しかし、ハリストス正教会以下については、震災遺構の対象からは除外されました。

は他の整備・保存計画があり、震災遺構の対象からは除外されました。

門脇小学校のこと

第一候補となった門脇小学校の遺構認定にも問題がありました。門脇まちづくり協議会から、生活を再建する可住地域に隣接しているので、「早期に解体してほしい」という要望があったからです。確かに、焼けたたれた校舎がすぐそばに残っているのが重くなるのも理解できました。

一方、委員会では、門脇小は津波や火災の恐ろしさだけでなく、裏の山手に適切に避難した経験を伝える重要な施設だ、という意見も少なくありませんでした。激しい津波火災の痕跡は、惨状と救命の両方を同時に伝えることができるから



震災遺構になった大川小学校

多くの犠牲者を出した大川小学校は、委員会の検討対象から除きました。同小の事故検証委員会が設置されましたので、当面解体はありえず、解決をみた段階で改めて市で検討するということになりました。

める町内会の意見や遺構の整備・維持経費等も考慮して、一部保存という方向で進めました。全国にも例のない複合災害の様子を後世に伝え、防災教育や防災意識を育てる拠点にするのが、石巻の震災復興につながると思えたからです。

1年かけて検討した結果、2014年12月に、門脇小学校を震災遺構として保存・活用すること、行政文書をはじめとする震災記録の収集とアーカイブ化の促進などを市長に提言しました。



ひらかわ・あらた
昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。館館長に就任した。

東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26~31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館館長に就任した。